

- 特集① 全国や世界で活躍できる選手の育成と支援
- 特集② がんばる女性農業者の起業活動を応援
- 県政Q&A ●県政の動き ●県政クイズ
- 元気レシピ「白ねぎを使った鶏つみれ鍋」
- 富山湾館キャンペーン実施中!
- おでかけ情報



救急医療の最前線。 一人でも多くの命を 救うために。

廣田幸次郎さん(高岡市)

未来テラシスト
明るい富山のメッセージ



命にかかわる重症患者を24時間体制で受け入れる「救命救急センター」。厚生連高岡病院救命救急センター長の廣田幸次郎さんは、一分一秒を争う救急医療の現場で、専門医や救急隊らとともに日々闘っています。

’97年に着任後、高岡医療圏を中心に、若い医師や救急隊員の教育、医師が救急隊へ常時指示できる体制等の整備に取り組んでいます。こうした活動が高く評価され、昨年9月、救急功労者総務大臣表彰を受けました。

廣田さんは、’84年から金沢大学付属病院で勤務。地方でいち早く救急に力を入れて取り組んでいた同病院の教授のもとで、救急医療の基礎を体得しました。’92年からは、当時、日本最先端の高度な診療機能を有する日本医科大学高度救命救

急センターで、多くの重症患者を診療。そこで得られた経験が、迅速な分析と判断が必要な救急患者の治療に活かされています。

「地域の救急だけでなく災害医療も我々の役割」と廣田さん。厚生連高岡病院の災害派遣医療チーム(DMAT)のリーダーとして、多くの災害現場で医療支援活動に携わりました。東日本大震災の発生直後にも、被災地での救護活動や重症患者の搬送に奮闘しました。また、県DMAT等連絡協議会長として、富山県全体の災害医療体制の強化にも尽力しています。

24時間365日、重症患者に対応するためには、若い医師の力が不可欠です。「地域で若い人材を育て、大事故や大災害が起きても、地域の人々が安心できる体制を作り上げることが必要」。多くの命を救うため、廣田さんは理想の医療を今日も追い求めています。

「地域の救急だけでなく災害医療も我々の役割」と廣田さん。厚生連高岡病院の災害派遣医療チーム(DMAT)のリーダーとして、多くの災害現場で医療支援活動に携わりました。東日本大震災の発生直後にも、被災地での救護活動や重症患者の搬送に奮闘しました。また、県DMAT等連絡協議会長として、富山県全体の災害医療体制の強化にも尽力しています。

24時間365日、重症患者に対応するためには、若い医師の力が不可欠です。「地域で若い人材を育て、大事故や大災害が起きても、地域の人々が安心できる体制を作り上げることが必要」。多くの命を救うため、廣田さんは理想の医療を今日も追い求めています。



大地震を想定し、医療支援の訓練を実施するDMAT隊員。

県政Q&A
県政に関するご質問に
知事が答えます!!

皆様のご意見をお待ちしています。
「元気とやま目安箱(知事への意見・提言)」係まで

●はがき・手紙 〒930-8501 県庁広報課
●FAX 076-444-3478
●インターネット <http://www.pref.toyama.jp/tiji-form.html>

この件の
お問合せは **県医務課** ☎076-444-3219
http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1204

Q 本県の救急医療体制について、お聞かせください。

A 県では、急病や事故の際に、症状に応じた適切な診療を受けられるよう救急医療体制の体系的な整備を進めています。比較的軽症の患者は、休日夜間急患センター(県内4施設)等が、入院等が必要とする重症患者は公的病院(19病院)が交替で、より重篤な患者は救命救急センター(2病院)が、受け入れています。

一方で、軽い症状でも、休日や夜間に、重症患者を受け入れるための病院を受診する方が増える傾向にあり、これにより、救急医の多忙化と疲弊や、重症患者の診療への支障が懸念されています。

救急医療を守るために、比較的軽症の場合は、かかりつけ医での診療時間内の受診や、休日夜間急患センター等の利用などの協力をお願いします。

なお、夜間における子どもの急な病気やケガの際には、小児救急電話相談(＃8000)による助言を行っています。

(参考)平成22年の本県における救急搬送時間は全国最短です。

特集 ① 全国や世界で活躍できる選手の育成と支援

トップアスリートの活躍で、富山を元気に！

全国や世界の檜舞台で、本県のスポーツ選手が活躍する姿は、県民に勇気と感動を、子どもたちに夢と希望を与えてくれます。県では、本県の選手たちのさらなる飛躍のため、競技力の向上や、県民みんなで応援する仕組みづくりを進めています。



バンクーバー五輪銀メダルの田畑選手(右)、穂積選手(左) (ダイチ株)

本県の競技力の現状

2000年とやま国体以降、選手や指導者の世代交代が進んだことなどにより、本県の国体の総合成績は、次第に下降してきました。そのため、県では、これまでの競技力向上対策を見直し、トップアスリートの育成・強化を目指した新たな取組みを進めています。

競技力向上のための主な取組み

まず、「見つける」、「育てる」、「活かす」という観点から、小学生からの一貫指導体制の整備や、ホッケーやハンドボール等の地域に根差した競技の重点強化により、将来のトップアスリートを目指す選手育成を進めています。また、県総合体育センターを強化の中核拠点として整備し、選手への医・科学的サポートによるトレーニング指導やトップチームとの合同合宿などを行っています。さらに、優れた指導者を養成するため、ナショナルトレーニングセンター等と連携し、最先端の戦術やトレーニング方法等の習得を支援しています。

これらに加え、県民の注目度や関心の高い駅伝、野球、サッカーには、全国や世界で活躍する選手やチームの育成に実績のあるアドバイザーを招き、指導者や選手のレベルアップを図っています。



医・科学的サポートによるトレーニング

スポーツの力で富山を元気に！

バンクーバーオリンピックでの田畑・穂積両選手の活躍は、県民に大きな感動を与えてくれました。こうしたトップ

Interview

メダル獲得を目指して

昨年8月、ハンガリーで開催されたカヌー世界選手権の女子カヤックシングル200mで4位に入り、ロンドンオリンピックの出場権を獲得することができました。現在は、8月のオリンピック本番に向けて、東京のJISS(国立スポーツ科学センター)を拠点に、毎日トレーニングに励んでいます。1月からは、カヌーを漕げる環境を求めて、オーストラリアをはじめニュージーランド、イタリアへ遠征の予定です。このようにいつも最高の環境でトレーニングができるのは、トップアスリート支援事業

カヌー 北本 忍 選手 (県体育協会)



の認定を受けて県をあげて応援して下さるからです。大変感謝しております。オリンピック本番で最高の成績を出し、県民の皆様に良い報告ができるように精一杯頑張りますので、今まで同様、県民のみなさんの応援をよろしくお願いします。



富山県の競技力向上対策

I 強化施策の再構築

- 一貫指導体制の整備
- お家芸競技の重点強化

II 強化拠点の再整備

- 中核拠点(県総合体育センター)の整備
- スポーツ医・科学的サポート
- ナショナルトレーニングセンター等との連携



- 富山県民スポーツ応援団設立
- 元気とやまスポーツ応援基金の創設

県政の動き 2011 10 ▶ 12

最近の動き

- 10 1 北陸新幹線・並行在来線と地域活性化の
タウンミーティング(黒部会場)
- 5 国際砂防フォーラム2011
県子育て支援・少子化対策県民会議
- 13 第3回県総合計画審議会(中間報告案)
- 19 中小企業との対話(富山市)
元気とやま協働戦略検討会議
- 22 とやま環境フェア2011(~23日)
- 23 義仲・巴頭彰シンポジウム
- 29 北陸新幹線・並行在来線と地域活性化の
タウンミーティング(富山会場)
越中とやま食の王国フェスタ2011
~秋の陣~(~30日)
- 11 2 県功労表彰式
- 4 秋の叙勲伝達式
- 10 新型インフルエンザ対策総合訓練
- 12 ふるさとづくり県民フォーラム
- 13 県民参加の森づくりフォーラム
- 15 県立中央病院 新NICU運用開始式
- 20 とやま科学オリンピック2011
豊かな海づくりフォーラム
- 27 県総合防災訓練(氷見市、小矢部市、南砺市)
知事と若手経営者によるとやまの産業の
発展を考える会(南砺市)
- 28 県議会定例会(~12月13日)
- 12 17 県地球温暖化防止県民大会
- 23 環水公園スイートクリスマス2011
- 28 Uターンフェア・イン・とやま

今後の予定

- 1 19 富山のさかなキトキトフェア(東京・永田町)
- 2 11 越中とやま食の王国フェスタ2012
~冬の陣~(魚津市)
- 18 とやま映像祭2012(~19日 県教育文化会館)

??? 県政クイズ ???

○の中に言葉を入れてください。

富山県民○○○○○応援団への募金を活用し、オリンピックでの活躍が期待される選手や指導者の活動を支援しています。(ヒントは2ページにあります。)

正解者の中から、このページで紹介したブルーベリー茶とブルーベリージャムのセットを5名の方に、黒部名水カレーしるえびカレー(2個)を5名の方に、プレゼントします。



はがきにクイズの答え、ご希望の商品名、郵便番号、住所、氏名、年齢と本紙の感想を記載し、下記まで。当選の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

宛先 ●〒930-8501
(住所記入不要)県庁広報課
「県広報とやま1月号クイズ係」
締切 ●1月27日(金)(必着)

特集② がんばる女性農業者の起業活動を応援

女性の力で 地域農業を活性化!

県では、女性農業者が、いきいきと働き、輝くことができるよう、その起業活動を積極的に支援しています。



農村における女性の起業活動

近年、食や環境に関する安全・安心志向の高まりを受け、「地産地消」を意識する生産者や消費者が増えてきました。こうした中で、女性ならではの視点や発想で地元で採れる農産物を活用し、加工品づくりや直売などを行う取組みが県内各地で盛んになっています。

一方、その取組みの多くは、事業規模が小さく経営が不安定であり、また、経営管理の知識やノウハウが不足しているなどの課題を抱えています。そこで、県では、農村における女性の起業活動が円滑に行われるよう、さまざまな支援を行っています。

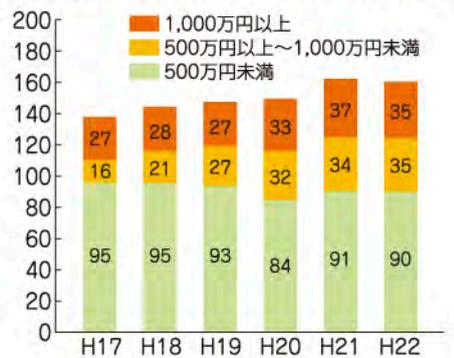
起業組織の発展段階に応じた支援

県では、農産物加工や直売などに意欲的に取り組もうとする農村女性を対象に、起業するために必要な商品開発や経営管理のノウハウを養う「農村女性スキルアップ講座」を開催しています。

さらに、経営のさらなる発展を目指すときは、「がんばる女性起業発展支援事業」により、事業や組織の発展段階に応じて、新商品開発、事業規模の拡大や販売力の強化などを支援しています。

農村における女性の起業活動は、地産地消や食育の推進だけでなく、地域農業の活性化にも貢献しています。女性農業者がいきいきと働き、輝くことで、元気で魅力あふれる農村となるよう、今後も、積極的に支援していきます。

●本県における農村女性起業件数の推移



農村女性スキルアップ講座

1. 共通講座
経営管理、マーケティング、
現地研修等
2. 専門コース別実技研修
①米粉・大豆活用コース
②野菜スイーツコース
③包装保存技術コース



●がんばる女性起業発展支援事業

① 起業段階

●農村女性起業チャレンジ事業
新商品の開発等に必要な加工用機材・機械のリース等を支援

米粉入りりんごケーキ
(農)松永うの花農園加工部(小矢部市)

ブルーベリー茶
いなかふれさが風楽里(氷見市)

② 事業拡大段階

●農村女性起業拡大支援事業
事業拡大に必要な調査活動や直売所の整備、加工機器の導入等を支援

菓子加工場
コスモスグループ(砺波市)

米粉パン喫茶
(有)ファームこばやし(氷見市)

③ 企業への発展段階

●農村女性先進モデル企業育成事業
企業への発展を目指した多彩な商品構成や戦略的なマーケティングによる販売力の強化を支援

多彩な商品構成
(農)うなづき食工房(黒部市)

(農)味彩おおやま(富山市)

このページの
お問合せは ▶ 県農業技術課 ☎076-444-3276
http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1612/

県内おでかけ情報

●開催中～1月29日(日)まで
「みんなのアート・ミュージアム2012」

▽一般300円(230円)、大学生200円(150円)、小中高生無料
県内の学校と近代美術館が協力して開催する企画展。



南砺市立福野中学校 制作風景

●2月25日(土)～4月8日(日)まで

「パリで学んだ画家たち 芸術の都でみた光」
▽一般500円(400円)、大学生400円(300円)、小中高生無料
「芸術の都」として、世界各国から芸術家が集まるパリ。明治から昭和にかけて渡仏した、日本美術家に注目し、フランスの影響を、その作品や関係資料から探ります。

●開催中～1月29日(日)まで

「あつまれ墨画アーティストワークショップの作品から」
▽一般300円(230円)、大学生200円(150円)、小中高生無料

●2月10日(金)～3月20日(火・祝)まで

「追悼・岩崎巴人展」
▽一般700円(550円)、大学生500円(380円)、小中高生無料
平成22年5月に急逝した岩崎巴人氏を偲ぶ展覧会。富山県と縁の深い作品を中心に紹介するほか、松本清張の新聞連載「清張通史」の挿絵原画を初公開します。



バケモノ 百鬼夜行図

●開催中～1月25日(水)まで

「干支にちなんだ植物展」

昨年の干支「卯」と今年の干支「辰」にちなんだ植物を実物や写真、パネルなどで紹介します。



「タツ(辰)にちなんだ名前があるドラゴンフルーツ」

●1月27日(金)～2月29日(水)まで

「平成23年度研究発表展」
植物園の職員が行った研究の成果を、写真や標本などのパネル展示で紹介。



「昨年の展示の様子(雲南省のトウツバキに関する研究)」

●3月2日(金)～3月4日(日)まで
「第40回 蘭まつり大会」

県立近代美術館

富山市西中野町11-16-12
TEL 076-421-7111
開館 ●9:30～17:00(入館は16:30まで) 休館 ●月曜(祝日は開館)、祝日の翌日
交通 ●富山駅(CiC横)から富山ミュージアムバス(城南ルート)で約10分(無料) / 富山駅から地鉄バスで「西中野口」下車、徒歩2分
※入料金の()内は20名以上の団体料金
<http://www.pref.toyama.jp/ranches/3042/3042.htm>

県水墨美術館

富山市五福777
TEL 076-431-3719
開館 ●9:30～17:00(入室は16:30まで) 休館 ●月曜(祝日は開館)、祝日の翌日
交通 ●富山駅(CiC横)から富山ミュージアムバス(呉羽山ルート)で約6分(無料) / 市内電車大学前行「新富山」下車、徒歩約10分 ※入料金の()内は20名以上の団体料金
<http://www.pref.toyama.jp/ranches/3044/3044.htm>

県中央植物園

富山市婦中町上豊田42
TEL 076-466-4187
開園 ●[1月]9:00～16:30(入園は16:00まで)、[2月]9:00～17:00(入園は16:30まで)
休園 ●木曜(祝日は開園)
入園料(冬季料金、2月まで)
●一般・大学生400円(320円)、小中高生無料
※料金の()内は20名以上の団体料金
交通 ●富山駅から地鉄バスで「中央植物園口」下車、徒歩10分
<http://www.bgtym.org/>

「日曜植物案内」
毎月第1日曜 13:30～14:30
※1月は第2日曜

とやま発! 元気レシピ

白ねぎを使った鶏つみれ鍋

cooking POINT

- 人参をみじん切りにして、Aに入れると、より色味がキレイになる。
- つみれは、やわらかすぎるくらいでOK。
- つみれからタンが出るので、化学調味料は使わなくてよい。



1人分 約246kcal

入善の特産である「やわらか雪白ねぎ」は、やわらかくて甘みがあるのが特徴。今回は、その白ねぎの美味しさを活かした鍋物をご紹介します。白ねぎのほかにも地元で採れた大根や白菜などの冬野菜がいっぱいで、心も体もほかほかに。水に溶けやすい栄養素も、汁ごと一緒に食べることで、逃さず摂れるのも魅力です。

協力 ●入善町食生活改善推進協議会

作り方

- ①白ねぎ1本をみじん切りにし、Aと混ぜ合わせる。
- ②もう1本の白ねぎと、人参、しめじ、えのき、椎茸、白菜、大根は食べやすい大きさに切る。春菊は葉と茎を分ける。
- ③鍋にBを入れ、火にかける。
- ④③が煮立ったら、①をスプーンですくい、鍋に入れる。
- ⑤鍋に②も入れ、火が通ったら出来上がり。

材料・分量(4人分)

- 「白ねぎを使った鶏つみれ鍋」
- 白ねぎ(2本)
 - 人参(1/2本)
 - しめじ(1パック)
 - えのき(小1パック)
 - 椎茸(小1パック)
 - 白菜(2枚)
 - 大根(10cm)
 - 春菊(1/2束)
- [A]
- 鶏ひき肉(200g)
 - 卵(1個)
 - 砂糖(大さじ1)
 - 塩こしょう(少々)
 - 生姜(1かけ)
 - 片栗粉(大さじ1・1/2)
 - ごま油(小さじ1/2)
- [B]
- だし汁(1.8L)
 - 酒(100cc)
 - 醤油(50cc)
 - みりん(50cc)
 - 塩(少々)

富山湾鮭キャンペーン
極上鮭でおもてなし! 実施中!



県内の寿司店44店舗にて、極上鮭をお手頃な価格で味わえます。

一セット 10貫 価格 2,000円～3,500円
(店舗毎に価格を設定・税込み)

- ◆ネタの全てが、富山湾の新鮮な海の幸
- ◆シャリはおいしい県産米で、汁物付き

内容についての 県観光課
お問い合わせは TEL 076-444-3200
<http://www.toyamawan-sushi.jp/>

除雪にご協力を お願いします!

路上駐車は止めましょう!

路上の駐車車両は、除雪作業の妨げになります。特に夜間から早朝にかけては、絶対に止めましょう。

道路に雪を捨てないで!

雪を道路に捨てると歩行者や車の通行を妨げ、事故の原因にもなります。

歩道の除雪にご協力を!

自宅の出入口付近の歩道や車道の除雪にご協力をお願いします。



「県広報とやま」に関する
ご連絡、ご質問は

〒930-8501(住所記入不要) 県庁広報課まで TEL:076-444-3134 FAX:076-444-3478
E-mailは次のアドレスのフォームよりお送りください ▶ <http://www.pref.toyama.jp/form.html>
広報課ホームページ http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1001/

「県広報とやま」は、4・6・8・10・1月(年5回)発行で新聞折込により各家庭にお届けします。また、県の各施設や市町村役場、図書館、文化ホールなどでも配布しているほか、本号とバックナンバーは、広報課のホームページで閲覧できます。

モバイル県庁

携帯電話から県の
情報を閲覧できます。
(右のQRコードから)

